



町内会短信 2月号

如月 2022年2月1日
川沿中央第一町内会長
柴田田鶴子

年末に終息に向かうかにみえたコロナ禍も、想像だにできなかったとてつもなく感染力が強いオミクロン株の出現で、死亡率こそ低いものの、若者、子どもにもすぐ伝染することで、またたく間に世界中を席卷し、人々を再び家の中に閉じ込めてしまいました。道も札幌市も1月27日から2月20日迄「まん延防止等重点措置」を適用し、感染拡大防止にやっきとなっています。しかし、長引くコロナ禍で、インフラ整備の不安や社会活動・経済活動自体がほころび始めています。

人手不足は、医療・教育現場(札幌市教委調べで、1月25日現在 市立学校の学級閉鎖は107校、210学級)にも及び、深刻な状態です。

2021年2月中の札幌市内感染者数は106名でした。それが一年経った2022年1月26日の感染者数は実に6倍の620名です。死亡者数は減ったものの、オミクロン株の感染者数は旧来のものに比べて爆発的に高く、全く予断を許しません。

昨年より降雪量も多く、除排雪に苦勞されている方々も多いと思います。あとひと月すると春の訪れです。皆様、何とか耐えて春を待ちましょう。



1月の町内会活動報告

町内会・連合町内会の活動は全て中止です。

2月の町内会活動予定

2月中旬 部長以上役員会予定

敬神講関係

2月6日 10:30～ 節分祭 於 藻岩神社 柴田責任委員出席予定

裏面へ →

郷土史より(視野を広げて) —北の先駆者・近藤重蔵(2)

郷土歴史家 吉田邦行



◆第一次探検 寛政10年(1798)4月15日～寛政11年(1799)2月26日

江戸—松前—襟裳(えりも) —厚岸(あつけし) —国後島(くなしりとう) —択捉島(えとろふとう)

この探検における重蔵の業績は、次の通りである。

(1) 7月28日、択捉島が日本の領土であることを宣言するために、「大日本恵登呂府」の標木を立てた。そこに重蔵らの同行者並びに協力してくれたアイヌの人々の名前を書き記した。それは「ここで生活するのも防衛するのもアイヌの人々が主体であるからだ」と理由を述べている。

(2) 蝦夷地のアイヌの人々が、なぜ貧しいのか生活状況を調査した。アイヌの人々は、松前藩や商人たちから牛馬のように扱われ、悪辣な交易方法で物産を取り上げられていた。そのためアイヌの人々の生活が困窮の極みである実態を突き止めた。その実態を意見書として幕府に提出した。やがてそれは蝦夷地が松前藩から幕府直轄領となる重要な布石となったのである。

(3) 日高から十勝間の一部12km、私費を投じて道路を開削した。アイヌの人々の協力を得て海岸線に沿った山道である。そこには日高山脈が海に沈む断崖絶壁が続く最大の難所であった。それまで命がけであった往来が馬でも行き来できるようになり、アイヌの人々の困難を軽減し、強いては東蝦夷地に防衛と開発に大きく貢献したのである。

道路開削を終えた重蔵は、平取(びらとり)のアイヌコタンで『源義経』の伝説を耳にしたのである。それは鎌倉時代、頼朝に追われて東北で自害したとされる義経が、蝦夷地に渡り平取でアイヌの人々を助けたとの伝説である。アイヌの人々は、農耕や機織り(はたおり)などを伝授してくれた義経を「ハンガンカムイ(判官・神)」と呼んで崇めていたからである。それを裏付けるものとしてコタン(村)の人々は、他のアイヌの人々と違い耕作してヒエやアワなどを栽培していたからである。源氏出身の重蔵は600年の時を経てもなお義経を崇めていることに感激し、義経を祀ることにした。翌年、仏工・法橋善啓作の義経御神像を小さな祠を建て安置した。この祠は明治9年、平取義経神社となったのである。第一次探検を終え、重蔵の報告を受けた幕府は、統治能力のない松前藩にかわって北方領土を幕府直轄領にすることに決定した。そして重蔵を新たに択捉島の開発責任者に任じた。(次号につづく)